

# バリ&ロンボク・レポート

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/>

第33号 2012年11月発行



今回はバリからのレポートです。インドネシア・バリは世界中から多くの観光客が訪れる南国のリゾート地として開けていますが、たくさんのヒンドゥー文化とも接せられる場所です。今回はバリ伝統芸能であるバリ舞踊を少しご紹介させていただきます。

もともとバリ伝統芸能は、宗教や儀礼に結び付いたものが多いのですが、観光客用に余興として見せているバリ・バリアン(バリ語で「余興」)が有名です。この中でバリ舞踊として観光客を楽しませているバロン・ダンスとケチャ・ダンスは特に有名です。

どちらも上演時間は1時間半程度でバロン・ダンスは昼夜上演していますが、ケチャ・ダンスは劇の中で火を使う所があり、主に夕刻から夜にかけて行われますので、観劇鑑賞がお好きな方は一日で両方のダンスを観ることができます。



劇の前に行われるバロンの踊り。  
善、生、聖の象徴バロン

バロン・ダンスの終了近くの場面。  
サデワ王子と死神弟子カレカとの戦い

入場料はどちらも海外観光客で1人当たり約10万ルピア(現在¥1=約Rp.120で約¥840)です。

会場はデンパサール市周辺などのいくつかの場所で毎日行われています。

バロン・ダンスは、“ガメラン”というバリ島独特の楽器を使用して行われる踊りです。この踊りは、人の心の中にある善と悪の戦いを物語っており、戦いの結果は善悪両者とも生き残る(この世には善悪が永久に存在する)といった内容です。踊りに登場するバロンという動物は良い魂を、またランダという動物は悪い魂を演じています。

次にケチャ・ダンスですが、この舞踊劇は1930年代にバリで活動していた画家のウォルター・スピースやほかの西洋人芸術家たちの助言によって創作された舞踊劇です。

ケチャは少女がトランスして踊るサンヒャン・ドウダリ(神が踊り手に憑依して目をつむったままトランス状態での踊り)で、男たちの合唱をバックにしてラーマーヤナの物語を基に舞踊劇が展開されていきます。

どちらも少し物語が難解なので、事前に関連情報を取得したりして、前もって準備していくと、それなりに楽しめるかと思います。

バリにお越しの際は、一度はこれらの舞踊劇をご堪能願います。

★マリーナ・スポーツが満喫できるギリ・メノ & Casablanca にぜひお越しください★

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/>

Casablanca のお問い合わせは、  
shimaint@r4.dion.ne.jp へ



上はいずれもケチャ・ダンスの場面



サンヒャン・ドウダリ。疫病流行等を祓うために踊られた